

桐生の織物

伝統的工芸品

桐生を語る上で絶対に外せない「織物」ですが、その歴史はおよそ1300年前にさかのぼります。当時の税制で上毛野国(おおよそ現在の群馬県)が納めるべき物品として絹織物が挙げられているように、すでに絹織物の産地となっていました。時は下って1600年、徳川家康の関が原出陣に際しては1日で2,410疋(着物4,800着分以上)もの旗絹を献上し、戦勝によって吉例の地として有名になりました。その後、江戸時代中期には西陣から、明治時代には海外から、最新の技術を次々と取り入れて発展を続けたのです。現在でも「桐生で揃わない織物はない」と言われるほど、織物関連業の集積地として、情報の発信地として不動の地位を占めています。

桐生織 7つの技法

1

お召織
おめしおり



桐生発祥の最高級の織物。徳川家音が好んだことから「お召し」の名がつけられました。独特の細かい凹凸が特徴です。

2

緯錦織
よこにしきおり 又は
ぬぎにしきおり



単色の経糸に、八色以上の緯糸で文様を描き出します。

3

経錦織
たてにしきおり



三色以上の経糸と二色以上の緯糸で文様を表す織物です。

昭和52年、以下の七つの技法を持つ桐生織は通商産業大臣(当時)より「伝統的工芸品」に指定されました。

4

風通織
ふうつうおり



二重の生地を裏表に現わすことで柄を表現する、複雑な織物です。

5

浮経織
うきたており



二色以上の経糸を密に使い、刺繍のような滑らかな紋を織り出す方法です。

6

経緋紋織
たてかすりもんおり



経糸でかすり模様を表現し、さらに複数の緯糸で文様を織り出す、非常に手間のかかる織り方です。

7

縞り織
もじりおり



経糸が絡みながら緯糸と組み合うことで、織り目に隙間ができる一風変わった織物です。



桐生織物記念館

本町
エリア

桐生市永楽町6-6

☎0277-43-7272

開 10:00~17:00

休 毎月最終土・日、8/13~16、12/29~1/3

交 JR桐生駅より徒歩5分

桐生織物協同組合の事務所として建築され、織物や織機の展示のほか、産地価格で織物製品が販売されています。

桐生の織物

桐生を語る上で外せない伝統的工芸品